

# 蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成 24 年 11 月 16 日(金)

第 25 号

発行人 校長 鈴木史良

## 地域のために尽くす心

—— 全校生徒による深中クリーンプロジェクト ——

11月9日(金)の5、6校時に、生徒会主催によるクリーンプロジェクトを実施しました。ご存じのとおり、深良中学校では1年生が演劇「いのちの用水」をつくり上げていく過程で、この地域の歴史をひもとき、用水のすぐれた技術、先人の情熱や困難にも屈しなかった強い意志、熱い思いを学んでいます。すばらしい先人たちがはぐくんできた深良に育った子どもたちは、自らが育ったこの地域に誇りをもつでしょう。

また同時に、中学生として大人への第一歩を踏み出しつつある今の自分をふり返ってみると、身近に暮らす地域の人々が自分の成長にかかわってきてくれたことに改めて気づき、感謝の念をいただくようになるでしょう。心の中に、自然に「ありがとう」という気持ちが湧きあがり、自分をここまで育て上げてくれた深良という地域に何か恩返しをしたいという衝動に駆られます。そういう気持ちが生徒会活動「深中クリーンプロジェクト」として実を結びました。

10月12日、深良地区区長会で職員が趣旨説明して区長の皆様方のご理解を得た後、生徒会が動き出し、地区代表生徒が各地区の区長さんに事前相談して、活動内容を相談しました。29日に地区生徒会で作業内容や持ち物等の最終確認をし、当日の運びとなりました。区長さんと子どもたちが区内を美しくするために相談し行動するという事は、地域を愛し、自分たちの地域をより住みやすい場所にするための第一歩になると思います。ほんの小さな一歩かもしれませんが、これも「いのちの用水」学習につながる大切な学習だと考えています。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。



原区公民館で清掃活動に励む生徒



団地入り口の雑草をすべて取り去る作業

### 深良クリーンプロジェクト活動場所

八幡神社・岩波公民館・上須集会場・原区公民館・新田公民館・上原グラウンド・観音堂・切遠コミセン・八幡宮神社・町震コミセン・震橋運動場

### 活動内容

ゴミ拾い・落ち葉掃き・草取り・館内清掃など

参加生徒 深良中学校141名・教職員

## 齋藤孝さんの言葉/御南高 50 周年記念講演より

11月15日(木)、御殿場市民会館で県立御殿場南高50周年記念式典が盛大に挙行されました。その記念講演として、テレビ等でおなじみの齋藤孝氏が登壇しました。演題は「学ぶ気持ちに火をつける～夢を実現する3つのチカラ～」です。

齋藤孝氏は1960年静岡に生まれ、静岡高から東大法学部に進み、卒業後は大学院で教育学博士課程を経て、現在明治大学の教授です。TBSの安住アナウンサーも教え子の一人だそうで、学生時代からコメント力は抜群だったそうです。

さて齋藤先生の講演ですが、その話しぶりのスピード感に驚きました。1時間40分間の講演すべてが、まるで言葉を機関銃で撃っているよう。しかも、その言葉一つ一つが聞いている御南高の生徒たちの心を掴んでいったのです。

まず齋藤先生は、日本が直面する最大の問題点は何か？と問い掛けました。答えは「少子化」で、齋藤先生はこの重大さに日本人は気づいていないと指摘し、子どもが増えれば経済は回っていくと説明。大学を出たら結婚し、20代で子づくり、子育てを、と高校生に力説しました。

次に「志(こころざし)」をもつことの大切さです。どんな優秀な人でも、志がないと優秀さも才能もだいなしになってしまう。真のエリートとは、“高い志をもって人のためにわが身を投げ出せる人”だと定義しました。そのために必要な要素は、**パッション(情熱)**、**ミッション(使命感)**、**ハイテンション(上機嫌)**だそうで、齋藤先生らしくこの言葉をリズム感よく高校生たちに練習させました。自分から書いたり、しゃべったりしなければ身につかないと説き、「できる」までのプロセスが問題ではなく、「できる」状態が最も大切で、途中であきらめてしまうとゼロになってしまうと鋭く指摘。恥ずかしがっていた生徒もいつの間にか齋藤先生のペースに巻き込まれていきました。

社会人になって成功するための秘訣も伝授し、「自分の上司に好かれることが大切。」と聴衆を笑わせてから、コミュニケーションの大切さを話してくれました。コミュニケーションの基本は「**目を見る・ほほえむ・うなづく・相づちをうつ**」で、上司に何かアイデアを求められたときには、いつでも最低一つはアイデアを出せる力が必要だそうです。それにもう一つ重要なものが**段取り力**。やらなければならないことに対して段取りを見抜き、メモを取ることで、これが“使える人間になる”こつだそうです。

日本が生んだ世界的版画家、棟方志功は10代後半のころ、ゴッホの絵を見て大感激し、「わだば(津軽弁/私はの意)ゴッホになる。」と何度も言い続けてすぐれた版画家になったそうです。それと同じように、まず毎日の学習の中に自分の感動を見つけ、それを声に出すこと。齋藤先生流に言うと、「**すごい、すごすぎる〇〇。**」とオーバーに感動すること。そうすることによって対象のすごさが理解でき、決して忘れなくなるそうです。・・・「**すごい、すご過ぎる齋藤先生。**」「**すごい、すご過ぎる深良中。**」



御南生を前に熱弁をふるう齋藤孝氏